

標 題 : Adherence to the Mediterranean diet is associated with decreased fecal calprotectin in patients with ulcerative colitis after pouch surgery.  
地中海食事の順守は 婁手術後の潰瘍性結腸炎の患者で  
便中カルプロテクチンの減少と関連する

---

著 者 : L. Godny, et al. (イスラエル Rabin 医療センター (テルアビブ大学  
サックラー医学部の傘下) 消化器病科)

---

掲 載 誌 : Eur. J. Nutr. 2019 Dec 7. [発行に先立つ電子出版]

---

要 旨 :

背 景 : 地中海食事は健康的効能と関連するが、炎症性大腸炎における地中海食事の役割に関しては不十分なデータしか存在しない。

ここで、地中海食事と炎症性マーカーとの間の関連を婁手術後の炎症性大腸炎の患者で評価することを、我々は目的とした。

方 法 : 潰瘍性結腸炎による婁手術後の継続患者を、広範囲の婁病院で募集した。

地中海食事の順守を、食事頻度アンケートに基づいて0(低順守)から9(高順守)の範囲の地中海食事スコアに従って計算した。

婁の調子を正常な婁または Pouchitis Disease Activity Index(PDAI)に基づく回腸婁炎と定義し、疾患活動性を活性または不活性と定義した。

C-反応性タンパク質および便中カルプロテクチンを評価した。

結 果 : 全体で 153 人の患者を登録した (男性 47%、平均年齢  $46 \pm 14$  歳、平均婁期間 9.5 年間)。

地中海食事スコアは、正常な患者で上昇した C-反応性タンパク質およびカルプロテクチン値の患者よりも高かった (それぞれ  $4.6 \pm 1.8$  対  $4.4 \pm 1.6$ ,  $p=0.28$  および  $4.8 \pm 1.8$  対  $4.07 \pm 1.7$ ,  $p<0.05$ )。

多変数回帰で、地中海食事スコアは低下したカルプロテクチン値と関連した (OR [オッズ比]=0.74 [0.56-0.99])。

地中海食事の順守は、食物繊維および抗酸化物の摂取と関連した。

最後に、正常な婁の患者のサブグループでの 8 年間追跡で、高い地中海食事順守は回腸婁炎の発病と逆相関した (ログランク=0.17)。

結 論 : 婁手術後の潰瘍性結腸炎の患者で、高い地中海食事順守は低下したカルプロテクチン値と関連する。

従って、地中海食事は炎症性大腸炎で腸の炎症を変更する役割を有する可能性がある。

キーワード : 炎症性大腸炎、地中海食事、回腸婁炎

---